令和２年3月24・25日

# 茅ケ崎中学校だより　4月号

横浜市立茅ケ崎中学校　TEL　９４１－０６０１
校 長　髙山　俊哉　　FAX　９４２－９２１６
Ｅ-mail：y2chigas@edu.city.yokohama.jp
学校ＨＰ：http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/chigasaki/

## 『卒業式　式辞』

校長　　髙山　俊哉

卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。

ウイルス感染症のために今日は皆さんと先生たちだけの卒業式となってしまいました。

晴れの姿を保護者や地域の方々に見ていただき、最後の合唱を聴いていただこうと思っていた皆さんにはどれだけ無念であろうことかと思います。

それは私たち学校の職員、とりわけ３年の先生方も同様です。本当に残念です。

いつもは在校生にも手伝ってもらいながら卒業式の準備をしますが、今回は皆さんに寂しい思いをさせないようにと、何日も前から校舎周りの清掃を含めて先生方皆で力を合わせて頑張りました。

いつもは受付やその他の仕事で、学校の職員が皆で式に出ることはできないのですが、今日は皆さんの晴れの門出をともに祝おうと、たくさんの先生がこの会場の中にいます。

私のこの話も通常より短くお話をしなければなりません。それだけに短い中に想いをこめてお話をしたいと思っています。

あなたがたは、今から９年前、小学校の入学直前に東日本大震災を体験しました。幼稚園や保育園の卒園式が中止になったり、あったとしても余震の恐怖の中の式だったりと聞いています。

原発の事故もあり不安の中での小学校のスタートでした。そして晴れて義務教育を終えるこの３月、再びコロナウイルスによる感染症のために、通常とは違う卒業式を迎えることとなってしまいました。

とても不運であったと考えれば考えられるかもしれません。

でも見方を変えると、君たちは人生の節目に二度もこのような経験をしたために、災害というものを本当に自分事として考えられる経験ができた学年ともいえるのではないでしょうか。

今年のお正月のテレビでは新しい年が明けた瞬間にアナウンサーが「今年こそ平穏な一年でありますように」と言っていましたが、その願いは早くも叶わないこととなりました。

残念ながら我が国や世界からは今後も災害はなくならないと思います。その時に、このような災害時に自分勝手な振る舞いもせず、じっと考え、じっと耐えた君たちの学年が、そして世代が、ともすると自分の事ばかりを考えがちになってしまう世界に向け「そうではないだろう」とさとし、希望を発信し続けてほしいと強く願っています。

そして、あなたたち自身も当たり前にあるはずだったことがじつは当たり前ではなかったことを身をもって体験しました。奇しくも今日は３月１１日、大震災の起こった日です。２組の歌った群青の中の歌詞、「当たり前が幸せと知った」を身に染みて感じているはず

です。毎日を、そして自分自身を大切にしてほしいと思います。

「艱難汝を玉にす」ということばがあります。困難があなたを鍛え宝石にするという意味です。困難は必ずあなたを成長させています。

長いようで短かった三年間、皆さんの頭の中にはこの三年間の学校生活の思い出が次々と浮かんでいることでしょう。

私は皆さんとは最後に一年しか一緒にいられませんでしたが、その間にともに過ごさせてもらった、修学旅行・体育祭・合唱コンクールそして部活動での真剣な眼差し、仲間を励ます声、そして笑顔を忘れません。

特に印象深く思い出すのは、夏の部活動の大会、最後の試合で敗色が濃厚な中、最後まであきらめず頑張り続けた君たちの姿です。そんな君たちの姿は「茅ケ崎中の心」として後輩たちに受け継がれたと感じています。

ひとつ言葉を贈ります。「素質とは努力する心」。

よく、何もやってみないうちから「自分には向いていない」という人がいます。何の努力もしていないうちから「自分には素質がない」という人がいます。

でもそれは違います。頑張ろうとする心、努力しようとする心、それこそがその人の持っている素質なのです。どんなことにもあきらめず、喰らいついていくガッツをもって生きていってください。

さあ、お別れの時間が来ました。皆さんが自らの力で光り輝く未来を信じています。卒業おめでとう！お元気で！

# 『別れの言葉』

冬の匂いがわずかに残る中、新芽の芽吹きと共に新たな春の訪れを感じ、たくさんの人に見送られながら、今日、３月１１日は三年間の思い出を胸に旅立ちを迎える一日となるはずでした。

新元号「令和」の始まりである２０２０年。節目となるその瞬間を迎えた今年は、“令和初の”という今年限りの枕詞に、毎年変わらぬ出来事に対して何か新たな希望を見つつも、たくさんの困難がところどころに立ちはだかる一年でした。

さまざまな困難があったとしても、今日を迎えるまでの時の経過はとても早く、３年前、初めて茅ケ崎中学校での生活がスタートしたときのことが、ついこの前のように思い出されます。

生徒会や部活動の熱気で埋め尽くされた活気のある教室や体育館、初めて袖を通した制服。そして先輩方の存在。何もかもが言葉にならないくらい新しく、大きく感じたのを覚えています。

中学校生活では、先輩方のすごさを目の当たりにし、その背中に憧れを抱き、必死に追いつこうとしました。そして“最後”の年。とめどなく溢れる先輩としての責任、仕事に追われ、息のつく間もなかったことを覚えています。

生憎の天候の中始まった２泊３日の長崎への修学旅行。南島原では晴天に恵まれ、普段では見ることのない雲仙岳もその姿を見せ、旅の成功を暗示しているようでした。１日目の民泊体験では、“家族”や“人”のぬくもりに触れることができました。最終日に臨んだ平和集会では被災地を訪れ、人の温かさとは真逆の歴史、現実を目の当たりにし、人命の尊さに改めて想いをはせました。

体育祭は二日間での開催。雨に降られても、仲間が苦しくても、どんな状況でも気持ちを途切らせることなく、最後の最後まで勝利という目標に向けて学年の枠を超えて仲間と前進することができました。

合唱コンクールでも、８クラスそれぞれの混声四部を奏でるため、限られた時間の中で仲間と取り組みました。３年生としての力を見せることができたと思います。

集大成とも言える進路選択に挑む私たちは、初めて自分自身と真剣に向き合う中で見えてきた不透明で曖昧な自分自身の考えに対する焦り、行き先の見えない不安の中で支えてくれたのは、そばにいてくれた家族や折に触れ声をかけてくださった先生方でした。

今、この場に胸をはって立てているのは、家族、先生方もそうですが、多くの時間苦楽を共にした赤学年という多くの仲間がいてくれたからです。

三年間当たり前にあった学校生活や行事も“最後”がつき、一つひとつ終わりを迎えました。そして、様々な行事が中止となり、学校も休校となってしまいました。当たり前が当たり前のように訪れると思っていたことが、私達にとっては当たり前に訪れるはずであった“義務教育最後の卒業式”でさえも、形を変え行われることとなりました。

このような状況であることをふまえて、未来を担う私たちは、今この場にいる２８８名の仲間を大切に思い、３年間たくさんの時間を過ごした学校でお世話になった先生方に見送られ卒業式ができることを当たり前と思わず、現状を受け入れ、次のステージへの一歩を踏み出しましょう。

慣れ親しんだこの学校生活から一歩を踏み出すことに不安はありますが、期待も大きいです。たくさんの仲間、先生方、そしてこの場にいない私達をどんなときも支えてくれた両親に感謝し、次のステージへ胸をはって進んでいきます。

今まで本当にありがとうございました。

令和２年３月１１日

卒業生代表

## 感謝状贈呈　元 PTA 会長 中野様

３月１４日に元 PTA 会長の中野義彦様をお招きして、横浜市教育委員会事務局北部学校教育事務所長よりの感謝状を、校長から贈呈しました。

中野義彦様は、第十七代茅ケ崎中学校 PTA 会長として本校の教育活動にご協力をいただきました。当時よりおやじの会の一員として学校の活動に深くかかわり、現在でも体育祭やふれあい祭では、OB おやじの会としてご支援をいただいています。

また、PTA の同好会である花いっぱいプロジェクトでは、学校内外の植栽の手入れにボランティアとして取り組んでいただいています。グラウンドの防球ネット沿いの花々や、校舎と緑道の間のチップを敷き詰めたランニングロードなど、日々、生徒の皆さんのためにと活動していただいています。

一方、地域では都筑区青少年補導員として地域の行事に積極的にかかわるとともに、その広い人脈を生かし、地域学校協働活動推進委員(学校地域コーディネーター)として、２年生の職場体験学習の受け入れ先の紹介や３年生の模擬面接官の紹介など、長年にわたり地域と学校の橋渡しにご尽力いただいています。

本来でしたら、全校生徒や地域の方々をお招きしての感謝状贈呈式を開催するべきところですが、新型コロナウィルスの流行により、PTA 役員会の場で、校長による代理贈呈となりましたことは、非常に残念です。

中野様、ありがとうございます。そして、これからも茅ケ崎中学校をよろしくお願いします。　　《副校長》

## 連　絡

◎茅ケ崎中学校では、ホームページをリニューアルしました。春休みの間も、新しいお知らせがあれば更新していきますので、ご家庭でのご確認をお願いします。　　《副校長》